



作：深谷未紗（フカヤミサ）  
京都造形芸術大学情報デザイン学科  
コミュニケーションデザインコース4回生

関西の上質な演芸文化のために…

NPO法人関西演芸推進協議会

～会員になって一緒に盛り上がりませんか？～

関西演芸推進協議会では、関西の演芸を盛り上げ、若手芸人の活躍を支援し、演芸の伝統を守り次世代へと継承していくために様々な活動をしていきたいと思います。あなたの入会でも、まず一歩、参加して…  
と、おひとりおひとりの思いと存在がこの協議会、そして演芸会を活性化します。皆様のご入会はもとより、ご友人、お知り合いの方にもお声をかけていただけましたら幸いです。

- 主目的**
- 1 定期例会の実施
  - 2 関西演芸大賞の設立
  - 3 芸人ための劇場をつくる
- 会員特典**
- 1 定期例会に、会員料金で予約できる。
  - 2 関西演芸推進協議会が主催する各種演芸会、勉強会に参加できる。
  - 3 会報誌の発行(年3回)

**■会費**

入会金	個人会員	2,000円
	賛助会員	20,000円
年会金	個人会員	年間1口 3,000円
	賛助会員	年間1口 30,000円

※いずれも何回でも可能。

くわしくは公式ウェブサイトをご覧ください。  
<http://www.walive.org>

エンタツ・アチャコの懐かしネタ  
お笑い昭和史

横山エンタツ・花菱アチャコをはじめ昭和時代に活躍した大阪の漫才コンビの懐かしいネタ…当時の漫才作家秋田実が支えてきた大阪の漫才、笑いを生み出すテクニックなどを長女で児童文学作家であり、当協議会・相談役の藤田富美恵さんがまとめた本。

昭和の漫才台本

第1巻は戦前編。23ある笑いの基本型から、「本末でんとう」「道理と理屈」「たとえ・ことわざ・慣用語」の4パターンをのやりとりを具体的に紹介しています。3、4巻は戦中編で、現在全3巻まで発売中。漫才を通して、庶民の生活史、昭和という時代を振り返る内容で懐かしい思い出にひたることができる。と同時に次世代へと語り継いで欲しい思いが込められています。

各巻1,575円(税込)文研出版  
児童文学作家(関西演芸推進協議会 相談役) 藤田 富美恵さん

演芸にまつわる雑学をご紹介します!

楽屋豆知識 「つばなれ」

お馴染み「楽屋の話」をご紹介します。芸人さんたちは、毎回お客さんの「入り具合」というのが気になるもの。劇場入りしてきた先輩芸人は、しばしば「どや、つばなれしてるか?」と後輩芸人に聞くそうです。すると後輩芸人はちょっと客席をのぞいて「はい、つばなれしてます」と応じます。さて、この意味、おわかりでしょうか?

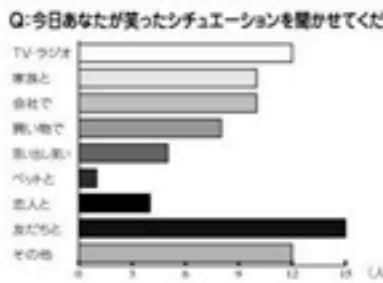
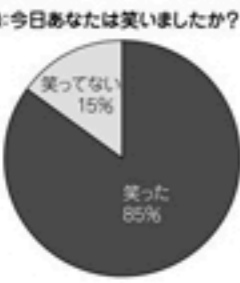
<つばなれ>というのは、十人以上のお客さまが客席に入っているということ。一う、二う、三うと数えて九うまでは「つ」がつきませんが、十からは「つ」がつきません。つまり、「つ」が離れるところから、<つばなれ>というわけです。会場の大小にかかわらず、十人以上のお客さまが客席に入れたことを<つばなれ>と言い、かつては、この<つばなれ>を合図に、開場を知らせる一番太鼓が響いたそうです。



▲早くも「つばなれ」している笑らいふ会場

街角の笑いネタを探せ!

街角で一般の方に聞いてみました。今回は、「どんなことで笑いましたか?」という内容。さて、みなさんは、どんなことを面白く思い、笑っているのでしょうか?



- Q: 笑いの内容は? (一部紹介)
- お笑い番組 (15才・男性)
  - 母親が自分と父親を間違えて呼んだ (21才・女性)
  - お店のおばちゃん「800万円おつ!」と叫んだ (29才・男性)
  - 靴が靴を片方ずつ違うものを履いていた (32才・女性)
  - 愛犬がネコにやられていた (15才・女性)
  - 上司と食事に行った時、かつらがとれた (36才・男性)
  - 訪問先でお客様にベタなギャグを言われ、返って笑った (39才・男性)

イベント報告&案内

- 関西演芸推進協議会総会&交流会  
平成20年5月14日(水) 18:30~ 於:ホテルメトロ21
- 関西演芸推進協議会「第5回笑らいふ」  
平成20年8月24日(日) 於:そごう劇場(そごう心斎橋本店14階)

編集後記

昨年5月にそごう劇場で開催された第1回「笑らいふ」から数え、4回目公演があり、運良く全てを鑑賞することができました。1回目は初めての経験で「笑う」余裕もなかったように思いますが、さすがに第4回ともなると、すっかり客席に溶け込み、気がつく、「大笑い」している自分に気がつきました。ライブならではの臨場感、舞台上の芸人さんの息づかいが近く感じられることが、生ライブの醍醐味です。次回「笑らいふ」は8月。次はどんなお客様がお見えになるのか、どんな出演者が会場をにぎわせてくれるのか、今から楽しみです。三寒四温をくり返し、新しい季節がやってきます。当協議会も新年度を迎え、ますます笑いの渦を拡張してまいります。次回もどうぞお楽しみに♪

NPO法人関西演芸推進協議会の公式ウェブサイトもご覧ください!

<http://www.walive.org>

笑らいふ 検索

イベントのスケジュールや各種ご案内をアップしてまいりますので、ブックマークに登録してくださいね!

会報誌「笑らいふ」への広告掲載も募集中です! お問い合わせは下記まで…

NPO法人関西演芸推進協議会<事務局>  
大阪市浪速区難波中1-10-4 千房株式会社内  
TEL.06-6633-1430 FAX.06-6633-1435 info@walive.org

関西演芸推進協議会 会報誌  
w a l i v e  
笑らいふ  
「笑らいふ」とは「笑」、「演」、SHOW(見せる)=LIVEという意味と、「WA」の意味する平和の「和」、みんなで手を繋ぐ「輪」の思いから名前にしました。  
発行/NPO法人関西演芸推進協議会 編集部  
<事務局>大阪市浪速区難波中1-10-4 千房株式会社内  
TEL.06-6633-1430 FAX.06-6633-1435  
<http://www.walive.org> info@walive.org

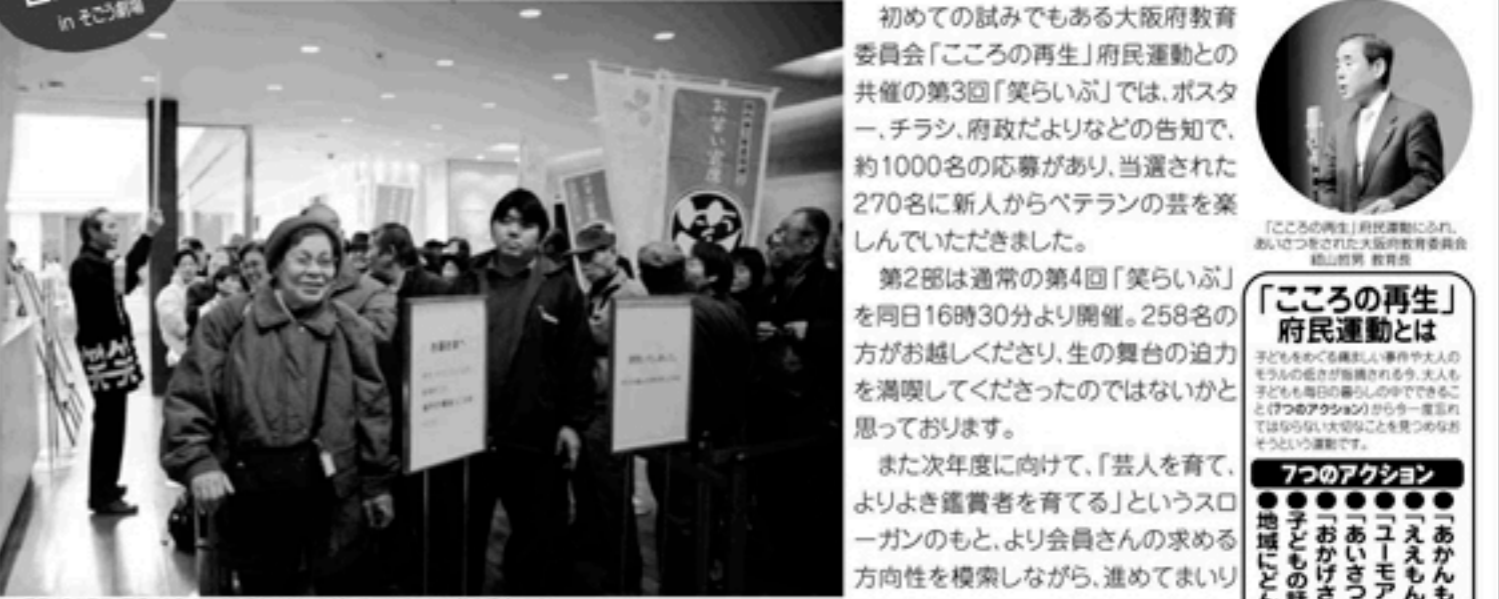
INFOMATION

当協議会も発足から早くも1年が経とうとしています。この1年の間に「笑らいふ」を4回公演。第3回では大阪府教育委員会からのご支援・共催も実現し、益々の発展と協議会事務のポテンシャルも高く評価をいただいております。これら一連の成果は会員の皆様のご支援、ご協力の賜物であることに改めて感謝し、新年度を迎えるにあたり益々の発展と取り組んでいく所存です。今後とも関西の演芸を広め、育て、継承するべく、たくさんの方に当協議会の活動を認知頂ける機会創出とその活動に邁進して参りたいと思っております。ご理解とご協力の程お願いいたします。

CONTENTS

- ☆ イベントレポート(第3回・第4回笑らいふ) …… 1頁
- ☆ イベントレポート(第2回笑らいふ) …… 2頁
- ☆ NPO法人関西演芸推進協議会のご紹介(ご寄稿文) …… 3頁
- ☆ 定期例会から…
- ☆ 協議会入会のご案内 他 …… 4頁

2008年 2/24 日 in そごう劇場 イベントレポート 「第3回・第4回笑らいふ」



▲一番笑いのお客様、会場から、喜んで公演をお待ちにしていた、ありがとうございます!



▲お笑い子さんはお笑いとしてご出演、お楽しみいただきました。お方も入ったお笑いも楽しかったです。



▲お笑い小劇場、今回は協議会がご協力いたしました。

次回、第5回「笑らいふ」は8月24日に開催を予定しています。次回の開催に向けて準備を進めてまいりますので、皆様のご協力のほど宜しくお願いします。



「こころの再生」府民運動に力、お力添えをされた大阪府教育委員会 総山節男 教育長

初めての試みでもある大阪府教育委員会「こころの再生」府民運動との共催の第3回「笑らいふ」では、ポスター、チラシ、府政だよりなどの告知で、約1000名の応募があり、当選された270名に新人からベテランの芸を楽しんでいただきました。

「こころの再生」府民運動とは

子どもを育てる責任、事件や大人のせうの責任が負われる中、大人も子どもも毎日の暮らしの中でできること(7つのアクション)から一歩進めてはならない大切なことを見つめなおすという運動です。

- 7つのアクション
- 「あかんもんはあかん」と、はっきりしなろう
  - 「ええもんはええ」と、はっきりほめよう
  - 「ユーマ」を大切にしよう
  - 「あいさつ」をもっと大切にしよう
  - 「おかげさんで」を大切にしよう
  - 子どもの話をじっくり聞こう
  - 地域にどんどん出て行こう

一人ひとりのアクションから大阪のまちが変ります!

# 演芸の幅と奥行きを伝えたい...

## 「若手の芸×伝統芸」バラエティーに富んだ実りの舞台

2007年  
10/28(土)  
in 本郷劇場



2007年10月28日、第2回笑らいふが開催されました。若手芸人の芸をはじめ、ベテランの演芸に安定感のある本物の笑いを鑑賞することができたことが何よりも貴重な体験となりました。真山広若さんの浪曲は迫力が迫力を見せていた他、照夫・光夫ご二人の漫才は見事な三味線をベースにおもしろおかしい漫才を披露され、会場と舞台の息の合う光景が印象的な第2回の公演であったと思います。まさに関西演芸推進協議会ならではの演じ手、鑑賞者の熱い息づかいが素晴らしい充実のひとときでした。



照夫・光夫



真山 広若



若井ぼん・いま寛大



桂 福団治



▲最後の打ち合わせを行う大谷邦郎氏(左)と今回の進行担当の松浦裕氏



▲富貴にたいに皆様ありがとうございます。



▲会長 小野幸雄氏の挨拶で公演がスタート



▲「いっしょに笑わせ」お客様のお返事もスタッフが行います。



▲楽屋では芸人さんを取られる大谷氏



▲受付でも新しいコミュニケーションが生まれています。



浮世亭大吾・小吾



横山ともや・たつや



ブランコリー



▲本番前、舞台の配置など確認中

### 其の1 「笑い」は関西のエネルギー源

我が家の1日の始まりは、笑いから。「お早う」と言えば、母が「遅(おそ)よう」とツッコむ... (こんなのは序の口ですが)。関西では、ごく普通の家庭でもボケ、ツッコミは常識。そして、会社だろうと学校だろうと、機会あるごとに笑いを取ろうとします(いや、身につけていて、条件反射のように自然と笑いをとってしまうのかもしれませんが)。笑わせてなんぼ、いや、笑わせる人は関西では、いや大阪では「一目おかれる」のです。「おもろい」ことは誇れるのです。

それは、関西の土壌がそうさせているに違いありません。とくに、関西のお笑いの中心、大阪は、人も街も「食文化と芸能文化は日本一。どこにも負けへん」と内心思っている節があります。

それは、笑いも食文化も、ローマも1日にしてならず、だからです。

かつて、大阪は「天下の台所」だったことから独特の食文化を作ることができました。笑いもそうです。上方落語や漫才なども大阪で生まれました。そして、芸能文化が大きく花開くことになるのは、大阪が商人の街だったからと考える人もいます。商人の街では、人と人の円滑で楽しいコミュニケーションが求められ、それがお笑いや芸能の要素とうまく合致したのではないかと。大阪は武士中心ではなく、商人の街だったことが、庶民文化を生み育てるにはよかったのかもしれませんが。



そんな土壌がまた、次代を担うお笑い人を育て続けているようにも思います。それを裏付けるように、お笑い界では関西出身者が人数的にもトップクラスにあるといえます。

ところで、大阪のお笑い文化の舞台となった街が道頓堀です。その道頓堀にはかつて多くの演芸場があって、私の祖父の時代(大正から昭和)は、道頓堀は「浪花のブロードウェイ」のような場所だったといえます。そして、風呂屋さんや料理屋さんなども支援して笑い文化を盛り上げていたとか... (その話は次回に)

編集分室 八木純子  
(編集分室発行ネットマガジン「エルバイエル」) <http://www.lxl-net.com>

定期例会から...

### 「演芸」×「文化」の本質を伝えたい、育てたい...

NPO法人関西演芸推進協議会 推進会議&第3回・第4回「笑らいふ」準備委員会

1月7日(月)、午後6時30分より、推進会議が行われました。この日は今後の協議会の運営についてや、イベント開催での企画の強化をはじめ、次回「笑らいふ」開催の準備委員会としての実行計画にのびのびと打ち合わせを行い、参加された委員会メンバーの熱い議論が行われました。



### NPO法人 関西演芸推進協議会 第1回交流懇親会開催!!

2007年  
12/11(火)  
in ホテルメトロポリ

12月11日(火)、第1回交流懇親会が開催されました。10月に行われた「笑らいふ」で司会をされたアナウンサーの大谷邦郎の司会・進行、芸人の皆さんによる余興もあつたNPO法人関西演芸推進協議会ならではのユニークな交流懇親会となりました。

また、普段あまり顔を拝見できない、会員の皆様とも交流ができたと同時に、様々な業界の方々が集い、テーブルごとに、また各席を超えて、話題もそれぞれに弾み、笑い声もあちこちから聞こえてきていました。



▲最後は真中神楽の伝統舞でー



▲最後は真中神楽の伝統舞でー